

# 看護あきた

Nursing Akita

Vol. 105

平成23年度 2号

- 1 新人ナース紹介
- 3 シリーズ看護部長が看護の思いを語る
- 4 シリーズ認定看護師 こまち紹介
- 5 災害支援ナース活動報告会
- 6 シリーズ在宅看護
- 7 地区活動報告
- 9 平成23年度  
看護管理者連絡会議研修会報告
- 10 地区支部長会議
- 11 事務局からのお知らせ

## 秋田県看護協会会報

平成23年度会員数  
(9月2日現在)

6,743名

保健師 278名

助産師 313名

看護師 5,825名

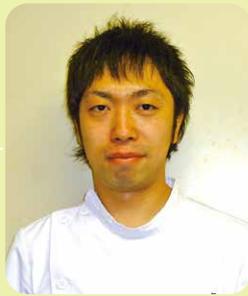
准看護師 327名



2011 北東北総体  
全国高等学校総合体育大会(インターハイ)  
最終日 水球の競技  
当看護協会から医療救護として派遣しております。



# 新人ナース紹介



多くを学び  
やりがいを感じる

## 渡部 裕さん

市立秋田総合病院 精神科

私は秋田県立衛生看護学院を卒業し、今年度から市立秋田総合病院の精神科に勤務しております。

総合病院の中の精神科として特徴的なのは精神疾患に身体疾患を合併した患者が多いことです。私は看護学校で学んだ知識をできる限り多く生かし、幅広い疾患に対応できる看護師になりたいと考えておりました。

また、現在は社会情勢の変化に伴い様々なストレスが発生し、うつ病を始めとする精神疾患が一般的に知られるようになりました。私は人間が健康であるためには精神的な安定が必要不可欠であると考えており、看護学校入学当初から精神看護に非常に興味を持っておりました。

「元々興味があった精神看護に加え幅広い疾患の看護を学ぶことができる」という点で、現在の環境は多くの学習の機会に恵まれており、やりがいを感じています。

勤務して数か月が経過し、日々の業務の流れには少しずつ慣れてきました。こういった時こそ、自己判断により取り返しのつかないミスを起こさぬよう、先輩方に意見を伺いながらチームとして安全、安心のできる看護を提供していきたいと考えています。



## 先輩ナース から

伊藤道子さん  
プリセプター

分からない事は、分からない。教えて下さいと素直に言える、とてもやる気のある新人です。スタッフ全員そのやる気に答えられるよう、タイムリーに指導するように心がけています。一つ一つ経験を積みながら一緒にがんばっていきましょう。



知識を身につけ  
患者さんを支えたい

## 小松 円さん

秋田組合総合病院 整形外科

みなさん、はじめまして。

私は昨年度日本赤十字秋田短期大学を卒業し、現在は秋田組合総合病院の整形外科で働いています。

病棟配属になった4月は分からないことがほとんどで多くの不安もありましたが、それ以上に憧れの看護師になることができた喜びと、これから専門職として成長していこうという気持ちの方が大きかったです。

そして4か月たった今、それなりに1人で出来ることが増えた一方で、4月の頃とはまた別の責任感を感じるようになりました。

私は、学生時代から患者さんの心の支えになる看護師を目指しています。しかし、患者さんに寄り添うだけでは不十分で、専門職としての知識やアセスメント力、判断力を備えていなければ十分な看護はできないと考えています。

私はまだまだ知識も少なく、十分なアセスメントができませんが、日々の学びを知識として身につけ、患者さんを支えていけたらと思っています。

4月からたくさんのお患者さんと接し、様々な事を感じてきました。これらの経験はもちろん今後更に経験を積み、自己の看護観を深めつつ専門職として成長していきたいと思えます。



## 先輩ナース から

小林実穂さん  
プリセプター

円さんと一緒に働き始めて早いもので4か月が経ちました。

一緒に仕事をするたび、頑張っている姿や成長しているところが見えて、うれしいような温かい気持ちになります。円さんは頑張り屋さんなので、疲れていないかと心配になるところもあります。

円さんが来年の春、一年を振り返った時「看護師になってよかった」「もっと続けたい」と思えるようにいろいろな面で支えていけたらと思います。

これからも一緒にがんばっていきましょう。



患者さんからの言葉に  
やりがいを感じる

## 柿崎 愛さん

市立横手病院 消化器内科

私は市立横手病院の消化器内科病棟で働いています。働き始めて4ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ仕事に慣れず日々自分の未熟さを感じています。この4ヶ月で患者さんに「看護師さんがすごく優しくしてくれるから、とても励まされるわ」とお褒めの言葉をいただいたことがあります。患者さんからのお褒めの言葉はとても嬉しく、「こんな未熟な私でも患者さんの役に立ち、少しでも励ましになる事ができるのだ」と看護という仕事にやりがいを感じました。

私は人の心に触れ、共に歩むことのできる看護師になることを目標にしています。そのためには知識も技術もまだまだ足りません。知識も技術も身に付け、患者さんにとって心から信頼のできる看護師になるため、積極的に学びたいと思います。また先輩方のように患者さんの励ましになり、優しくてあたたかい看護ができるよう努力したいと思います。



先輩ナース  
から

藤谷 栄さん  
プリセプター

初めて会った時、明るくて笑顔が素敵だなという印象を受けました。その印象通り、いつも明るく元気な笑顔で患者さんと接し、日々頑張っていると思います。最近では部屋受持ち業務もするようになり、これからますます責任ある仕事を任されたり、大変なことも沢山あると思います。どんな時でも笑顔を忘れず、親しみやすい看護師になれるよう一緒に頑張っていきたいと思います。



温かい職場環境の中  
知識や技術を習得

## 岡部克憲さん

雄勝中央病院

今年3月に由利本荘看護学校を卒業し、念願であった雄勝中央病院に就職しました。雄勝中央病院を選んだきっかけは病院合同説明会やインターンシップの参加を通し、職場のアットホームな環境、新人を教育するという熱意に惹かれたからでした。

就職して4カ月になります。私は、外科病棟で、優しく時に厳しく指導されながら、とにかく温かい職場環境の中、知識や技術の習得に励んでいます。今はできない悔しさから涙を流すこともありますが、それ以上に看護の魅力、やりがいを感じています。これからは夜勤も始まり、新たな緊張や責任の重さも出てきますが、先輩看護師の指導を受けながら今後も頑張っていきたいと思っています。



先輩ナース  
から

大沼絵梨子さん  
プリセプター

入職して5か月が経ちましたが、病棟スタッフの協力もあり、確実に成長してきています。外科病棟というあわただしい毎日の中で、段階に合わせた知識と技術の習得を目指していきたいです。1年後を楽しみにしています。

# 看護部長が **看護の思い** を語る

「明日に希望を繋げる看護」の実践



No. 2 社会医療法人 明和会 中通総合病院  
総看護師長

豊嶋 直美さん

## 看護は患者さんの想いを創造する仕事

当院では患者さんとの関係性の中で「明日に希望を繋げる看護」の実践を目指しています。患者さんの不安・辛さに向き合うことは「命・生活・人生」に寄り添うことであると考えます。平均年齢31.8歳と若い看護スタッフですが、「知」「情」「意」「体」を鍛え患者さんから学ぶ謙虚な姿勢を忘れず「気づきの達人」となれるよう日々努力を重ねています。患者さんの感謝の言葉に涙したり・・・苦情に落ち込んだり・・・感情労働と一言で言い切れない大変な仕事ですが、看護は身に付けた知識と技術を使い、患者さんの想いを創造する素晴らしい仕事だと思います。

## アサーティブに自己主張できる 看護師の育成

医療情勢の変化やチーム医療の推進に伴い、看護に期待される役割も拡大し、より明確に看護の専門性が問われています。「鵜呑みからは何も生まれない。自ら本質や真実を追求すること」というナイチンゲールの教えのように立ち止まり考える看護実践が大切と考えます。多忙を言い訳にせず、患者さんをよく観察し、話し合い、十分考えて自分の考えをきちんと伝える。アサーティブな自己主張と他職種のやり方を認めるプロセスがあってこそ看護師は成長できます。

## 病院新築に向けて未来に繋げる 明和会の看護

現在、平成25年の病院新築を目標に「患者さんに安心・納得・満足」していただく看護の機能について再検討をおこなっています。その人らしさを大切にする明和会の看護を継承しつつ、高齢者看護、チーム医療の活用などを学習し、看護の質で患者さんに選んでいただける病院づくりをしていきたいと考えています。また当院の看護職員一人ひとりが時代の要請に応え、看護を通していきいきとやりがいを持ち働き続けられる組織環境の創造が私自身の使命と捉え実践躬行していきたいと思っています。

中通総合病院は秋田市の中心部に位置し、1次救急から3次救急の一部を担い27の診療科、入院病床539床をもつ社会医療法人明和会のセンター病院です。昭和30年の創業以来「いつでも、どこでも、だれでも～患者さんの立場に立った親切で信頼される良い医療を行い地域医療に貢献する」を基本理念に掲げ、地域住民の方々に支えられ要望に応えながら成長を続けてきました。

## 一度は結婚退職したものの 当院の看護に魅せられて再入社

私は、新卒で昭和58年に当院に入社しました。当時から明和会の看護は、患者さんに寄り添い生活の視点で患者さんの問題を医師・PT・OT・MSWと協働して解決する風土（現在のチーム医療）が根付いていました。先輩看護師のスキルの高さに憧れ、患者さんの言葉に励まされ、どんな体験も活かす工夫をした新人時代でした。26歳で結婚退職し、外旭川病院での勤務を経て平成7年（32歳）、第3子を出産したばかりでしたが「もう一度患者さんに寄り添った看護がしたい・・・」当院の看護に魅せられ再入社を決意しました。



## 「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

### 岡田 智子さん

こまち File No.13

秋田赤十字病院  
認定看護分野／新生児集中ケア

#### 今取り組んでいること

新生児医療は、言葉で意志を伝えることができない新生児が対象です。そのため、どんな小さな反応も見逃さない観察力と的確な判断力、全ての新生児を優しく育むきめ細やかな対応力が必要とされます。その中で私は、NICUに入院する新生児の初期ケアや急性期の看護場面で自身の思考を言語化しながら看護実践モデルとして活動しています。また、全国の新生児集中ケア認定看護師と情報を交換しながらケアの見直しと向上に努めています。特に母乳育児支援に力を入れて取り組んでおり、学習会を通してスタッフと知識を共有しながらケアの幅を広げているところです。

#### 皆と一緒にがんばりたいと 思っていること

NICUに入院する新生児とご家族は物理的に離れ離れですが、心はいつでもつながっています。私たち医療者は新生児とご家族にとってあくまで支援者です。子どもを一番大切に思う両親が、主体的に子どもを家族として迎え入れることができるよう、子どもと両親の持つ力と可能性を信じて支援する体制を作りたいと思っています。



### 小坂 さおりさん

こまち File No.14

男鹿みなと市民病院  
認定看護分野／集中ケア

#### 今取り組んでいること

私が勤務しているのは内科小児科混合病棟になります。病床数47床。人工呼吸器装着中の患者さんが4名いらっしゃいます。他の病院の一般病院で、こんなに呼吸器を抱える病棟はありますか？そんなこともあり、呼吸管理・循環管理・フィジカルアセスメントを中心として勉強会を開催し、新人教育にも力を入れてベースアップをはかっています。院外においてはフィジカルアセスメントの講義を担当しました。

#### 皆と一緒にがんばりたいと 思っていること

当院の患者さんの平均年齢が80歳位になります。日本人の高齢化が

問題になっていますが、高齢者が高齢者を介護する現場や、一人暮らしで交通手段のないお年寄り、頼る人がいない、治療が終わっても病院から行き先が見つからない人等、今まで経験したことのない問題に毎日悩んでいます。ある意味日本の医療の最先端にあるこの現場で、10年後20年後も、私たちが主体的な看護を展開できるよう、皆と研究活動を通して看護援助の実績を残していく必要を感じています。



# 災害支援 ナース 派遣報告会

- ◆平成23年7月13日(水) 13:00~16:30
- ◆開催場所:看護協会5階第一研修室
- ◆参加者:27名(災害看護委員会委員2名含む)
- ◆内容紹介:

- 活動報告
- 情報交換の場
- 発表
- 全体会
- まとめ



## 概要

活動報告として、岩手県立中部病院、山田町平安荘、山田南小学校、釜石商業高校、宮城県石巻市桃生町に派遣された5人の支援ナースから、それぞれの場所の特徴ある活動について報告があった。

引き続きグループに分かれ、

①協会への要望 ②記録用紙や報告のシステムについて ③災害支援ナースとしての役割等々について、体験した出来事や感じたことと共に語り合ってもらった。

グループ発表では、

- ①災害支援ナース存在のPRについて
- ②帰ってから心の整理をする時間について
- ③事前情報やタイムリーな情報が必要なことについて
- ④荷物や交通経路の問題について
- ⑤報告のあり方について
- ⑥災害支援ナースの役割遂行等について

今後に向け前向きな意見がたくさん出された。

会長からのコメントとして、災害支援ナースが知られていないのは全くそのとおりであり、今後、育成研修と共に災害支援ナースの存在をアピールしていきたい。また、帰還後、休ませて上げてほしいということを強調していきたい。タイムリーな情報については、地元の看護協会が被災地そのものの把握が難しいということも考慮する必要がある。荷物については、自己完結であることから最大限の準備が必要なことを理解してほしい。交通手段については、日看協、近隣県それぞれ違ったが財政基盤の違いがあることも知ってほしい等が伝えられた。最後に会長は、一人ひとりの言葉にじんときた。被災地のナースはどんなにか感謝していることと思う。皆様が体験したことを自分の言葉で語ったことはよかったと思う。私どもも今回は組織力について改めて考える機会となった。看護協会に所属していてよかったと思ってもらえたら嬉しいと結ばれた。

同じ体験を語りあった後の参加者の明るく爽やかな表情が印象に残った。

今回、課題として災害支援ナースのアピール、情報共有のあり方、報告のシステム等が明らかになった。このことについては、継続的に検討していく。

# 在宅 看護

## シリーズ 8 訪問看護ステーション あきた



管理者 石川 セツ子

### ケアを継続するための、 病院と訪問看護の連携づくり

「訪問看護ステーションあきた」は看護師17名、介護支援専門員11名(兼務9名、専任2名)、事務職員3名で、24時間連絡対応体制を実施し、運営しております。平成23年4月現在の利用状況は、月平均の利用者数135名、訪問回数888回です。

平成7年10月1日、17名の利用者を対象に、訪問看護師3名、事務職員1名でスタートしました。開設後順調に推移し、利用者および職員の増加に伴い、平成20年3月に事務所を新築移転しました。また平成21年11月に訪問移動時間の効率性を考え、秋田市飯島に「ステーションあきた飯島出張所」を併設しました。

利用者の多くは、退院後医療機関から紹介されることが多いのですが、地域のケアマネジャーからの紹介ケースも多くなっております。

最近、訪問看護をとおして感じていることは、入院患者の退院が急に決定されるケースが増加していることです。社会的なニーズの変化により、特に末期癌等の終末期にある場合、自宅に帰るタイミングを逃されないことから、このような状況になっているものと思われます。在宅移行時の必要な情報提供と医療連携体制及び生活環境整備の迅速な対応(短時間による退院調整)により在宅療養は可能となっております。

退院から在宅へつなぐ、継続的なケアを引き継ぐために、主に訪問看護として重視していることは、①医療機関の地域連携担当者・病棟看護師と訪問看護師の密接な連携②本人・家族へ訪問看護についての十分な説明と同意③関係者によるケアカンファレンスまたは担当者会議の開催、等です。

退院調整は、病院看護師と訪問看護師の密接な連携が必要であり、同職種間の相互理解の下、看護の質の確保が重要ではないかと考えております。

訪問看護の成果・メリットとして考えられることは、再入院及び社会的入院回避の一助になっていることがあげられます。ケアを担う身近な訪問看護師が、地域と病院をつなぐ橋渡しの役割を担うことで、利用者・家族が安心感を持ち、現疾患の悪化を予防し再入院を防ぐこともできます。また早期に退院が可能となり、利用者も「住み慣れた自宅(自宅)へ、早く退院することができた」と喜ばれております。訪問看護を大いにご活用ください。

今後の動向では、介護保険制度改正法案において、医療と介護の連携強化等が提案され、「地域包括ケアシステム」の実現に向け全く新しいサービスとして、「定期巡回・随時対応型サービス」、「小規模多機能型居宅介護と訪問看護の複合型サービス」の創設が進められております。これらへの関わりとして、ますます多職種によるチームでの取り組みが必要と考えます。その中心的役割は看護職が担っていると思います。



## 秋田臨海 地区支部

秋田臨海地区支部長 大石 静香

### 「ふれあい看護体験」

今年も夏休みに入った中学生や高校生を対象に「ふれあい看護体験」を行いました。秋田赤十字病院、秋田組合総合病院、市立秋田総合病院、中通総合病院には快く実習を受け入れてもらっています。今年も申込が多数で、この事業への関心の高さがうかがえました。

参加した白衣姿の生徒達は、学生服姿とちがいが、初々しい白衣姿で、指導にあたった看護師の話を一生懸命に聞いていました。内容として病院見学や看護実技体験、看護実習を行いました。血圧測定では、なかなか脈を見つけることができず、苦労している姿が見られたり、赤ちゃんの抱っこ体験では、赤ちゃんの重さに驚いたりしていました。病棟での患者さんとのふれあいや看護師の姿を通して、「ありがとうと患者さんに言うことができる、やりがいのある仕事だと実感した」「毎日、患者さんのために頑張っている看護師さんのことを改めてすごいと思った」「看護師を目指す上での目標が、今回の体験で、はっきり見えた」といった感想が聞かれました。ふれあい看護体験は「患者さんや看護師と直にふれあうことを通して医療や看護に対する理解と関心を深める」という目標で行っている事業ですが、これから看護師を目指すとする人たちの心に残る体験になり、将来へつなげることができたと思います。ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。



## 湯沢・雄勝 地区支部

湯沢雄勝地区支部長 小野 順子

### まちの保健室

当地区支部の23年度事業の活動開始は5月の「看護の日」事業からです。

「まちの保健室」と湯沢市社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」に支部役員会員が参加し「看護の日」PR・地域住民の健康づくり推進を行ってきました。

「まちの保健室」 5月 8日(日) 参加者82名  
会場:イオンスーパーセンター湯沢店内

「ふれあい広場」 7月10日(日) 参加者96名  
会場:湯沢市サンロード

事業内容は例年、血圧測定 体脂肪測定 健康相談 協会

グッズやパンフレットの配布による協会のPR等です。

近年の傾向として血圧測定は自己管理されている方も多く見受けましたが、体脂肪測定、コレステロール値に関する質問等も多くパンフレット等をとおして健康指導を行ってまいりました。



## 鹿角 地区支部



鹿角地区支部長 戸館 桂子

### 「みんなで話そう 看護の出前授業」

「看護の日」の企画として「みんなで話そうー看護の出前授業」を平成21・22年度は今年3月で閉校となった小坂町立小中学校で少人数の学生を対象に先生、保護者の方を含め、役員が講師となり楽しい雰囲気の中、授業を行いました。

今年は、6月10日、将来の看護師を目指している男子8名を含む高校生34名を対象に、当地区在住で協会員でもある、弘前医療福祉大学保健学部看護学科准教授奈良知子先生を講師に迎え、看護の世界をのぞいて見ましようというテーマで①看護の仕事について、②看護の道、看護技術の体験（心音聴取、脈拍測定、患者移動、体位変換、赤ちゃん抱っこ）の授業を行いました。学生達とともにコミュニケーション技術や、指一本の体位変換について力学を活用した授業など、役員達も昔の学生時代を思い出しながら参加しました。またかつての厚生病院副看護部長川又留以子氏より、看護の喜びや厳しさなど体験談を含めて話して頂きました。学生の感想には、「コミュニケーション技術にも沢山学ぶことがあり驚きました」「今回の授業また現場の声を聞くことによってもっと看護師について学びたいと思い、更に看護師を目指す意欲が高まりました」「またこのような機会があったら参加したいです」などうれしい声



が聞かれました。

また7月27日、「ふれあい看護体験」を市内3病院で、鹿角郡市内の高等学校3校から学生24名が参加しました。プチナースとして学生達もたくさん患者様と医療スタッフと接して、いろいろな学びがあったようでした。これからも学生の皆さんの思いを大切に将来の仲間が増えるように、役員一同頑張っていきたいと思えます。



「まちの保健室」では湯沢市内のイオンスーパーセンターのご協力を頂き、開設時間内に店内アナウンスで我々看護職の活動をPRしていただきました。休日のため子ども連れのご家族も多いことから、ちびっこナース体験や中高生に向けた「看護のしごと」「進路相談」等の企画も今後検討していけたらと思います。

参加した役員や会員の皆さんから他施設の会員同志交流もでき、地域の皆様ともふれあいの時間が持て充実していましたとの感想もいただきました。

平成23年度

# 看護管理者 連絡会議 ・研修会報告



- ◆平成23年7月14日(木)
- ◆開催テーマ「多職種との連携による看護の質向上」
- ◆参加者：看護管理者・福祉施設及び訪問看護ステーションなどの看護管理者75名

## 内容紹介

### 1. 講演◆「秋田県における医療政策の現況について」

講師：秋田県健康福祉部参事兼医務薬事課長 高橋 勝弘氏

秋田県の医療の動向について数値を基に具体的に説明され、とてもわかりやすく興味をもって聞けた。秋田県のがん検診受診率アップの取り組みの実績や周産期医療施設の連携体制、医師・看護職員確保に向け県がどのような対策を考え取り組んでいるのか等の現状を理解することができました。また、20年後の人口減少に伴う秋田県の医療の課題をこのままでいいのかと示唆され、今後の看護職としての課題も考えさせられました。参加者からは、わかりやすく「県の医療政策や看護の動向を知ることができよかった」と好評でした。

### 2. 情報提供◆「看護の動向と課題」 烏会長

はじめに東日本大震災への対応や災害支援の今後の課題など伝え、日本看護協会の動向から秋田県看護協会の新公益法人移行の準備状況等を説明。参加者の声は、「災害支援ナースの活動や現状の看護の動向、協会の活動を知ることができ情報提供は有意義だった」と好評でした。

### 3. 話題提供◆「チーム医療・地域連携の円滑な推進」をテーマに3施設での実際の取り組みを発表された。

- ①大館市立総合病院の畠山江美子看護部長は「医療施設に看護補助者を導入して」と題し、看護補助助算、看護補助者研修会の実施状況や今後の課題について話された。
- ②本荘第一病院の大須賀滝子総看護師長は「多職種（医療クラーク等）との連携について」、メディカルクラークの業務内容の推移や導入後の看護科の所感を述べ、退院時に必要な書類を事前にそろえてくれるので速やかに準備できると話された。
- ③特別養護老人ホーム海松園の関屋三紀子ケアマネジャーは「看護と介護の連携について－介護職員に対する痰吸引・経管栄養等の研修を受講して」と研修受講後の活動を紹介。実際の研修プログラムの紹介やリスク回避の具体的な方法を提言され、介護職員が研修を受けたことで怖さも理解できたと話していると発表された。

### 4. 情報交換◆ 1)各医療機関・福祉施設等における多職種との連携

2)地域における医療機関と福祉施設等との連携  
の2つのテーマで10グループに分かれ話し合いを進めた。

意見交換後の発表の内容は・医療機関、施設共に互いに特徴を知らなければならない。・退院調整の中での訪問看護の役割重要。・在宅療養の環境整備、充実が必要。・急性期病棟への補助者導入の仕方が課題。・吸引は慢性期病床では実施させている。・チーム医療のレベルアップのためには看護補助者との業務内容等システム作りが課題など、今後の多職種との連携における課題を提示する貴重な意見が話されました。

## まとめ

今年度は非会員21名と多数の参加があり、アンケートでは・施設からの発表があると施設看護職も多く参加できる。・今回のようなテーマは病院、施設混合グループにしてほしい。・医療政策の現状と施設での現状にギャップがあることについて考えさせられた。・意見交換は有意義だった。等の感想が述べられており、参加姿勢は年々積極的になってきていると実感できた研修会でした。（記事：第一副会長佐藤ヨシ）



# 地区支部長 ・委員長会議報告

常務理事 佐藤 潤子

## 第1回 地区支部長会議 について

平成23年7月5日(火)午後、看護センターにおいて、地区支部長9名、地区支部会計担当9名、烏会長、三浦第二副会長、佐藤常務理事、笠井事務局長、総務部職員4名、総勢26名が出席し、第1回地区支部長会議が開催されました。

会議では、地区支部集会、地区支部委員の任期、地区理事と地区支部長の兼務等について意見交換が行われ、新定款及び新定款細則の地区支部関連条文及び地区支部規程について理解を深めました。

地区支部集会は地区支部の次年度事業計画と予算案を1月中に提出するため、今までとは開催時期が異なるので理解してほしいという発言が三浦第二副会長からありました。又、地区支部委員の選出は職場の人事異動の関係から4月がよいという意見や、地

区支部事業は12月で終わるので、1月に地区支部集会を行うのもよいという意見等々がありました。烏会長から、地区支部集会は1月とし、次年度の事業計画と予算、次期委員を決めることを目指していたきたいとの言葉がありました。

地区理事と地区支部長の兼務に対しては、①地区理事と地区支部長を兼ねると病院を離れることが多く、病院からは無理だと言われている ②地区理事と地区支部長を兼ねることで理事会の意向が地区支部に伝わりやすい ③地区支部長と副地区支部長の業務分担を整理することで可能になるという意見等が出されました。今後、地区支部でも業務分担を検討して整理することにし閉会となりました。

## 第1回 常任・特別委員長会議 について

平成23年8月9日(火)午後、看護センターにおいて、常任・特別委員長12名、烏会長を含む理事7名、事務局から笠井事務局長を含め4名、総勢23名が出席し、第1回常任・特別委員長会議が開催されました。

はじめに烏会長から、平成23年度重点事業等の情報提供、東日本大震災に伴う災害支援ナースの派遣や今後の課題等について説明がありました。続いて今後の委員会のあり方について、これまでの検討経過の説明と本年7月の理事会で承認された委員会設置の資料に基づいて、3つの職能委員会、6つの常任委員会、3つの特別委員会を置くこと、教育会議の新設、委員会組織図等々について説明がなされ、引き続き2グループに分かれて意見交換を行い

ました。意見として看護の日委員会業務を今後広報委員会が担うので2委員会の意見交換が必要であり、広報委員会については委員数増員の必要がある。学会委員会に看護研究支援ワーキンググループを統合させることは道筋がついているので可能である等、具体的な意見が交換されました。また、新設予定の教育会議に対するとまどいが多く出され、これについては、看護協会として公益社団法人化に向かって、教育全体の枠組みや方向性を検討していくことと、全体的な視点から「教育会議」の機能と役割を整理していく必要があると会長から説明がありました。10月5日の地区支部長、常任・特別委員会合同会議で再度話し合うことと、教育会議を今年度中に発足させることを確認し閉会しました。

# INFORMATION

## 事務局からのお知らせ



### 第38回 秋田県看護学会のご案内

メインテーマ —看護職の可能性—

口演発表 12題(10:00~14:00)  
示説発表 4題(12:00~12:30)  
示説掲示 9:30~15:30

#### 【特別講演】

テーマ「キャリアの節目を楽しみ、未来を展望する」  
講師 勝原裕美子氏(聖隷浜松病院副院長兼総看護部長)

参加枠にまだ多少の余裕がございます。ご希望の方はお申し込み下さい。

事業部直通

☎018-831-8020 FAX.018-831-8023  
E-mail; a.kango.kyouiku3@jupiter.ocn.ne.jp

## 平成23年度入会申込みについて

今年度の入会申込期日は9月末日までとなっておりますので入会ご希望の方は期日までの手続きをお願いいたします。

## 他都道府県からの転入会員の会費について

他都道府県にて当該年度の会費を納入し、秋田県へ転入してきた方は当県の会費を免除しております。

## 平成23年度新規入会者の方へ

入会金の納入期限は、平成23年12月末日までとなっておりますので期日までに納入していただきますようお願いいたします

問い合わせ: 会員管理担当 ☎018-834-0172



### 広報出版委員会の紹介

今年度の広報出版委員です。  
皆様からのご意見、ご要望をお待ちしております。  
どうぞよろしくお願いいたします。

前列中央 佐々木順子委員長(山本組合総合病院) 前列左 保坂あい(外旭川病院)  
前列右 猿田真紀子(県立脳血管研究センター) 後列左 中屋郁(中通リハビリテーション病院)  
後列中央 中川久美子(秋田組合総合病院) 後列右 五十嵐紅子(市立秋田総合病院)

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

### 編集後記

今年は、2名の委員交代があり、気持ちを新たに委員会活動に励んでおります。皆さんに楽しみに待って頂ける“看護あきた”にと、メンバー間で活発な意見交換をし合っています。会員の皆様と一緒に魅力のある看護あきたを作っていけたらと思っています。表紙についても良いアイデアがありましたらお寄せ下さい。お待ちしております。

(佐々木 順子 記)

## 看護あきた Vol.105 平成23年度 2号

Nursing Akita



発行日/平成23年9月20日

発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長

発行所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577